札幌市立中央中学校学校便り
吾あり 人あり 学びあり

臨時号
令和8年(2026 年) 11 月 27 日発行
編集 札幌市立中央中学校教務部
代表 011-241-6266
http://www.chuo-j.sapporo-c.ed.jp/

今年度 4 月に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」の回答結果と本校の分析・今後の改善策を以下にまとめております。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

※△全国平均を上回っている［３ポイント以上］　◇全国平均をやや上回っている［３ポイント未満］
▼全国平均を下回っている［３ポイント以上］　◆全国平均をやや下回っている［３ポイント未満］

【 中学校国語 】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向性
中学校国語	**【内容 知識及び技能】** **(1)言葉の特徴や使い方に関する事項** **◆全国平均をやや下回っている。** **(2)情報の扱い方に関する事項** **△全国平均を上回っている。** **【内容 思考力、判断力、表現力等】** **A 話すこと・聞くこと** **◆全国平均をやや下回っている。** **B 書くこと** **△全国平均を上回っている。** **C 読むこと** **△全国平均を上回っている。**	●文の成分の助詞の働きや単語など文法事項を捉えること。 ●目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。 ●自分の考えが話合いの課題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめること。 ●表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。 ●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。	○文の成分働きや使い方などの理解を深め、文章の中でその役割について判断できる活動を一層充実させていきます。 ○国語科の学習や社会生活における、文字を書く目的や必要に応じて、漢字の習得や効果的な学習活動の充実を図ります。 ○目的や場面に応じて集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討したり、活用したりすることの活動をさらに深めていきます。 ○話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付けたり、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめたりする活動を充実させていきます。 ○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章を作成できるような活動をさらに充実させていきます。 ○図表と文章との関連を確認するなどして、書き手の 伝えたい内容を正確に読み取る活動を充実させていきます。 ○目的や相手を明確にして、日常生活の中にある文章の内容を要約して相手に伝える活動を充実させていきます。

【 中学校数学 】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向性
中学校数学	【領域】 「A 数と式」 △全国平均を上回っている。 「B 図形」 △全国平均を上回っている。 「C 関数」 △全国平均を上回っている。 「D 資料の活用」 △全国平均を上回っている。	●整数の性質を、文字を用いることにより筋道立てて説明することができる。 ●見通しをもって証明を進めることができるようにする。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるようにする。 ●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにする。	○具体的な数の計算から得られる結果から整数の性質を予想し、文字を用いて式に表すことの便利さとよさについて理解できるような授業を展開します。また、説明の結果から更に他の整数の性質に発展させられるように指導をしていきます。 ○証明の道筋を立てるために図を用いることで、見通しをもって証明問題に取り組むことができるよう、指導を進めていきます。また、複数の証明の解法を比較、検討することで、思考力・判断力・表現力を身に付けさせていきます。 ○日常の事象を数理的に捉え、表・式・グラフを相互に関連付けて考察することで、さまざまな考え方を交流し協働して課題解決に向かうことができるような学習活動を取り入れます。 ○データの分析について学習した内容を、日常生活や社会の事象で活用することができるように題材を工夫します。また、用いる代表値や表・グラフのつくり方によって、説明できる分布の特徴が変わることを指導し、身のまわりにあるさまざまなデータを正しく読み取り、考察する力を育てていきます。

【 中学校英語 】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向性
中学校英語	【領域】 【知識・技能】 ・授業においてキーボードを用いて英語を書く。 △全国平均を上回っている。	●タブレットを用いて各種課題に取り組むこと。	○日常的な話題や、提示された課題に対する自分の意見や感想等を、キーボードを用いてまとめる活動を充実させます。
	【思考・判断・表現】 ・英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする。 ◇全国平均をやや上回っている。	●日常的な話題に関する内容を聞き、概要をとらえること。	○学校生活等の日常的な話題について、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、話全体の流れや要旨を捉える学習活動を充実させます。
		●日常的な話題に関する内容を読み、自分の置かれた状況などを判断して、必要な情報を読み取ること。	○複数の情報を含むまとまりのある内容を読み、目的や場面、状況等に応じて必要な情報を読み取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるかを判断した上で読み取ったりする学習活動を充実させます。
		●社会的な話題に関する内容を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。	○説明文等のまとまりのある文章を読み、その内容に関する賛否や自分の意見、その理由や根拠の関係を明確にしながら、内容を整理して書く学習活動を充実させます。
	【主体的に学習に取り組む態度】 ・英語を学び活用する意欲を喚起する。 △全国平均を上回っている。	●英語を学ぶことの有用性と学んだ英語を生かすことのできる進路選択への意識を高める。	○国際的な話題等を提示し、それらを解決する方策等を考え、英語を用いてまとめたり発信する活動を充実させます。

生活や学習に関する調査について（生徒質問紙調査における全国平均との比較）

1．本校生徒の肯定的な側面（成果と強み）

① 高い利他意識と、対話・協働を楽しむ姿勢（相互承認の土壌）

本校生徒の最大の強みは、**他者を思いやり、共に学んだり社会に貢献しようとしたりする意識が極めて高い点**です。

- 「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒は 82.5%（全国公立 69.8%）に達し、全国平均を大きく上回っています。
- 「学級の生徒との話し合いを通じて自分の考えを深めている」（本校 53.1% / 全国 39.6%）、「友達や周りの人の考えを大切にして協力して課題解決に取り組んでいる」（本校 59.4% / 全国 49.0%）など、協働的な学びの素地が非常に豊かです。
- また、「自分と違う意見について考えるのが楽しい」（本校 39.2% / 全国 32.0%）、「学級で人と違う意見を言っても否定されない」（本校 38.5% / 全国 34.2%）と感じており、互いの違いを認め合う「相互承認の感度」が高まっています。

② 高い ICT 活用能力と探究的な学習能力

本校が推進する「生成 AI パイロット校」を背景に、生徒のデジタル活用力と探究力は際立っています。

- 「授業での ICT 活用頻度（ほぼ毎日・複数授業）」は 62.2%（全国 29.3%）、「プレゼンテーション（スライド）の作成ができる」は 72.7%（全国 46.4%）と、全国を圧倒するスキルを身に付けています。
- 「総合的な学習の時間で自ら課題を立てて調べ、発表している」（本校 49.0% / 全国 32.4%）、「ICT を使って情報を集め整理し発表できている」（本校 61.5% / 全国 37.3%）など、主体的な探究学習が日常化しています。

③ 自己承認と学校への安心感

- **「自分には、よいところがあると思う」**（肯定的な回答：**91.6%** / 全国 **84.0%**）と、高い自己肯定感を示しています。
- **「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できる」**（本校 **42.7%** / 全国 **33.4%**）と回答しており、学校が「心の安全基地」として機能していることがうかがえます。

2．本校生徒の課題と克服に向けた視点

① 生活・学習のセルフコントロール（自律的な時間の使い方）

「自ら学びを計画し、調整する力」において、引き続き改善の取り組みが必要です。

- 「平日 1 日あたりのスマートフォン等での SNS・動画視聴が 4 時間以上」の生徒が **32.9%**（全国 **28.8%**）存在し、生活リズムや学習時間の圧迫が懸念されます。
- **「分かった点・分からなかった点を見直し、次の学習につなげている（自己調整）」**（本校 **32.2%** / 全国 **29.3%**）は全国よりやや高いものの、計画を立てて自律的に学習を進める習慣（AAR サイクルの「見通し」と「振り返り」）には個人差が見られます。

② 高い貢献意欲を「自己存在感（自分が必要とされている実感）」へ繋げる手立て

- 「人の役に立ちたい」（82.5%）という思いが非常に強い一方で、本校「学ぶ力プログラム」でも分析されている通り、「自分が必要とされている」という実生活での手応え（他者からの承認）をさらに実感させることが課題です。
- 生徒の「～したい」という思いを実際の学校づくりや自治的活動に反映し、「自分の行動で学校や地域が変わった」という手応えを与える場を増やしていく必要があります。

3. 今後に向けた手立て（学校と家庭の連携）

対象	具体的な取り組み・手立て
教職員	**【AAR サイクル（見通し・行動・振り返り）に基づく授業改善と自治活動】** ・単元の導入（見通し）で生徒自身に問いや計画をもたせ、終末（振り返り）で自分の「伸び」を実感させる授業の徹底。 ・生徒の声を聴き、学級経営や学校行事等で自己決定の機会（自治的な活動）を増やす。 ・生徒たちへの肯定的な声掛けを増やす。
ご家庭	**【「まほうのかいわ」と生活リズムの整え】** ・スマホやゲーム等の利用ルール（夜間の終了時間等）について、お子様自身と共有する。 ・御家庭内でも日常の小さな手伝いや成長に対し、「伸びを認め、ほめる」メッセージを伝える。

【結果から】

本校の強みである「温かい人間関係」「高い探究力・ICT 力」を核としながら、生徒自身が「学びのコントローラー」を握り、自律して歩んでいけるように、全教職員一丸となって指導・支援を推進してまいります。

結果から、「自分には良いところがある」「困りごとや不安があるときに、先生や学校の大人にいつでも相談できる」という項目が高く、生徒と学校の関係性は良好である一方で、「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」という回答が全国平均よりやや低い結果となりました。我々教師も自分たちの指導を改善し、生徒たちのよいところをしっかり認めるよう指導・支援を推進してまいります。

また、本校の生徒たちは、御家庭での会話が全国に比べ非常に多く、学習や人間関係などの悩みを打ち明けている様子が伺えます。御家庭での日常の御支援に感謝申し上げますとともに、今後とも保護者の皆様と学校が一丸となって、生徒たちを支えていけるよう努めてまいります。
引き続いての御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。